

5バリューアセットの齊藤です。本年もよろしくお願いいたします。



5バリューアセット株式会社  
代表取締役 齊藤彰一

私は4年前に胆嚢（たんのう）を摘出する手術をしました。それまでの私は健康そのもので、自身の健康への気遣いなどは一切何もしておりませんでした。手術後は何かと不調なことが多くなり、一転して相当な気遣いをするようになりました。

まず食事。好きだったラーメンなど、体に悪そうなものは絶ちました。外食を控え、ランチは持参の弁当にし、ジム通いなどの運動、日光浴、健康動画の視聴、、まるで人が変わったかのようにになりました。

昔読んだ本によると、「天才と違って凡人は、病気にならないと健康のありがたみがわからない。」とのことですが、正に自分の凡人っぷりが恥ずかしいところです。

さて私は30年以上、資産運用提案にあたっては債券運用を推奨してきていますが、債券は健康に似たところがあると思っています。どういうことかといいますと、債券運用のありがたみというのは、下落相場やリスクオフ相場の時に、言い換えればマーケットが病気の時に一番理解されるものだからです。

私の前職の会社では、リーマンショック後に債券ビジネスを急拡大させました。ポートフォリオ分散も効かず、株やファンドなどは需給によってどこまで下がるかわからないなど、見通しが不透明であればあるほど、債券のみが安心して保有できる資産であることを多くのファイナンシャルアドバイザーやお客様が身に沁みるほど理解させられました。

このところ証券業界では債券ビジネスが縮んできていますが、2008年のリーマンショック以降に大きな下落相場がないことが一つの要因であると考えています。リスクオン相場を前提とすれば、或いは過去15年程度のパフォーマンスを前提にすれば、債券よりも株式の方に魅力を感じてしまいがちです。40歳以下のほとんどのファイナンシャルアドバイザーは大きな下落相場を経験していないわけですから、債券営業をやってみたいという若手などは稀でしょう。

さて、健康を気遣うようになった私に対して、「食生活が変わって本当に良かった。お父さんは病気になって本当に良かった。」と医者になった長男から真顔で言われました。長男に言われると少し癪にさわれますし、素直にうなづくことはできないのですが、人間ドッグの数値も見違えるほど良くなり、いい具合に痩せてきましたし、今後の人生のことを考えると本当に病気になって良かったのかもしれない、と凡人であろう私は思っています。

同様に、一般投資家の健全な投資哲学の獲得のため、金融リテラシーの向上のためには、少し位の下げ相場が定期的に必要なんだろうなと思っているのは私だけでしょうか？

本年も、当社の債券ビジネスをよろしくお願いいたします。

2025年1月15日